

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月
期末配当基準日 3月31日
中間配当基準日 9月30日
上場証券取引所 大阪証券取引所 JASDAQスタンダード
公告方法 電子公告
(当社ホームページに掲載)
[アドレス] http://www.broadmedia.co.jp/
ただしやむを得ない事由により電子公告ができないときは、
日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵送物送付先 電話お問い合わせ先 お取扱店	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 ☎0120-288-324 みずほ信託銀行 全国本支店 みずほインベスターズ証券 全国本支店
ご注意		未払配当金の支払(※)、支払明細発行は、右の「特別口座の場合」の郵送物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。 単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。

※未払配当金の支払のみ、みずほ銀行 全国本支店でもお取扱いいたします。



Broadmedia



ブロードメディア株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂8-4-14 青山タワープレイス6F



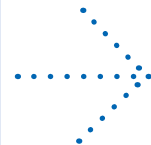
ブロードメディア株式会社

証券コード:4347

CONTENTS

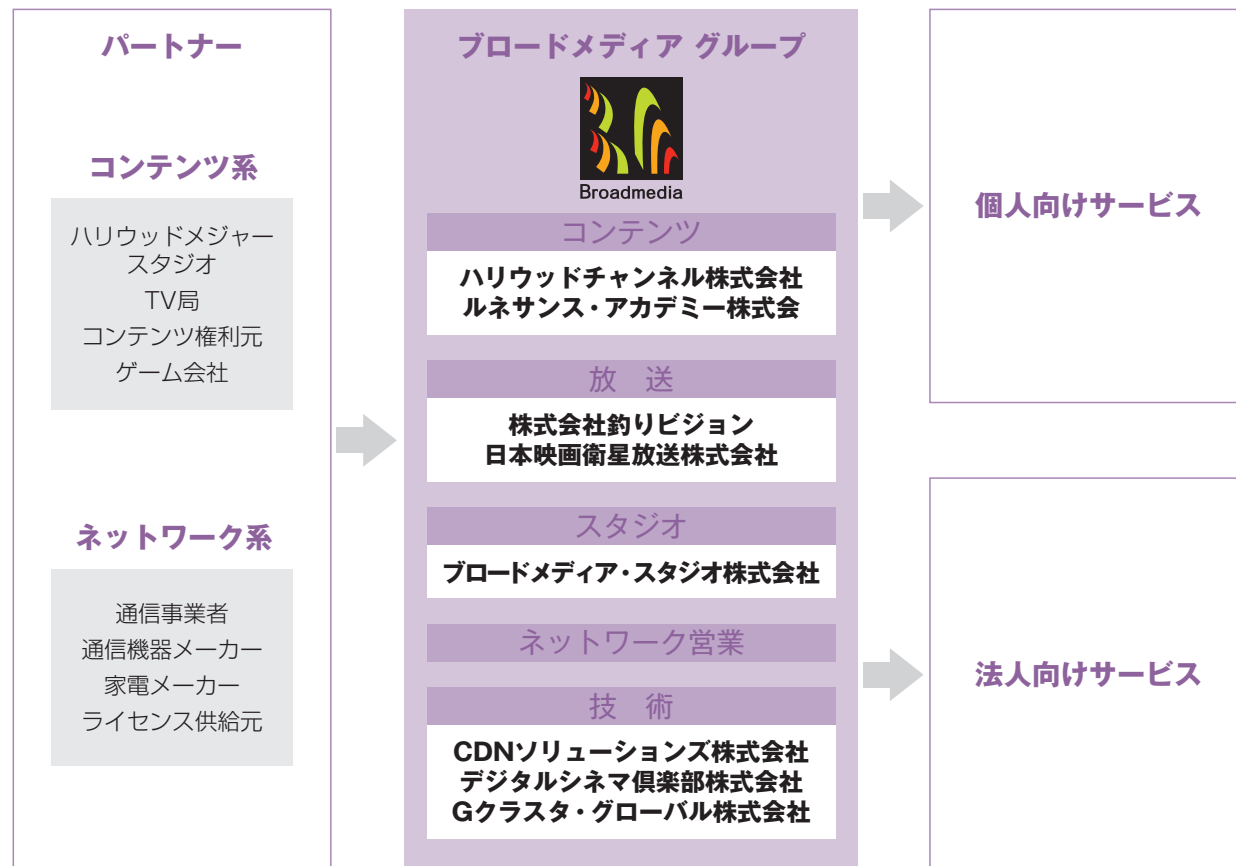
- 01 ブロードメディアビジネスモデル
- 02 トップインタビュー
- 05 部門別営業の概況
- 07 トピックス
- 11 四半期連結財務諸表(要約)
- 13 連結決算ハイライト
- 14 会社データ

強み



「技術プラットフォームを持つコンテンツ事業者」として、「コンテンツの調達能力」と、「それを安定的にかつ高品質で配信する技術」の双方を併せ持つ独自性が強みになっています。

ブロードメディアグループのビジネスモデル概要



「飛躍の為の準備期間」として 努力を継続してまいります。

Q1 現在の事業環境と今期の業績についてお聞かせください。

3月に起こった東日本大震災は、引き続き多くの経済活動に影響を与えています。当社の事業活動自体に多大な被害はありませんでしたが、当社の取引先も多数被害にあいました。これまで微力ながら当社ができる支援をしてきましたが、必要に応じて追加的な対応を行うつもりです。また、震災に続いて、極端な円高が進み、輸出産業にマイナスの影響が出ています。海外の映画やテレビ放映権の仕入れを行っている当社にとって、円高はプラスに働きますが、為替の変動によるプラスやマイナスよりも、国内消費の停滞の影響が大きく、事業環境は厳しい状況が続いています。

この上期6カ月の業績に関しては、ネットワーク営業が減収減益となり、また、字幕や吹き替えの制作事業の不調や、デジタルシネマ事業の売上計上方法の変更等がありました。結果として、売上高は期初の予想に届きませんでしたが、営業利益では期初の業績予想を上回ることができました。通期の業績に関しては、特にネットワーク営業の業績、映画配給の業績、それから新規事業の進捗という3つの不確定要素を勘案して据え置きとしています。

前期からの3年間は、「飛躍の為の準備期間」として、売上高や営業利益の大幅な増加があまり期待できないこと



代表取締役社長 **橋本 太郎**

をこれまでお伝えしてきましたが、おかげさまで前期はある意味で予想を超える良い結果となりました。残念ながら前期との比較で言うと今期は減収減益の見込みですが、それでも今期も前期同様に既存事業が頑張ってくれていると思います。今期の残りと来期も「飛躍の為の準備期間」としての努力を継続してまいります、最低限の業績は実現できるように頑張ります。

Q2 Gクラスタ・グローバルを関連会社にしませんが、その狙いについてお聞かせください。

Gクラスタ・グローバル株式会社(以下、GCG)は、世界最大の半導体会社インテル社の投資部門であるインテルキャピタルから資金を調達し、当社と提携するT's TV事業およびヨーロッパで展開しているゲームオンデマンド事業を、これまで以上に積極的に推進する体制を整えました。当社としては、今後のT's TV事業の広がりに加えて、インテル・グループとの協業も含めた技術やサービスの開発を加速させてまいります。そのためには、GCGへのコミットメントを高め、関係を更に密にしていくことが有効と考え、持分を増加させました。その結果、この第3四半期からGCGは当社の持分法適用関連会社となりました。

GCGが関連会社となったことが業績に与える影響は、短期的には軽微だと思っていますが、長期的には、関係性を深めるメリットは非常に大きく、プラスの影響があると思います。ゲームオンデマンドやVODのこれまでの仕掛けは、サービス毎に別のシステムを構築するものでした。しかし、Gクラスタを導入すると、1つのシステムで

3つあるいはそれ以上のサービスが提供できるようになります。これこそが、本当の意味でのクラウドであり、今後急速に世界的に普及する可能性があります。ゲームオンデマンドを目的にGクラスタが導入されれば、そこへT's TVを次世代VODサービスの仕掛けとして提供できるようになります。これは、大きなチャンスだと思います。

当社グループの事業の中で、現在そのままの状態海外展開が可能なものは、既に中国展開を開始した釣りビジョンと、このGクラスタだと思っています。中国での展開についてはまた別の機会にお話をしますが、GCGは海外で生まれた技術を日本で育成してきた事業であり、最初から世界市場を視野に入れています。その意味でも、インテル・グループとの協業は意義深く、今後のGCGの世界進出を加速すると思います。先にお話した準備期間としての3年間というのは、当社がGCGやインテル社のような企業とパートナーシップを確立し、成長基盤を固める3年間と位置付けています。

Q3 新規事業であるT's TVの現状と今後についてお聞かせください。

T's TVレンタルビデオは、あと1社で日本の主要なテレビメーカー全社への実装が完了します。また、8月にスマートフォンを活用したクラウドリモコン™の無料アプリを公開しました。今後も、スマートフォンを利用したサービスを積極的に打ち出していきます。

テレビの前の視聴者の大半は、やはり保守的に情報を受け取る人たちだと思います。色々な端末を使いこなす人は大勢いますが、そういう人たちもテレビの前では

受動的である場合が多い、ということです。したがって、テレビを通じてT's TVへの理解を深めてもらうよりは、たとえば急速に普及するスマートフォンの販売の現場で、スマートフォンとT's TVとの連動を訴求してもらうような展開を考えています。

また、これまでのT's TVは、当社が単独で提供するVODサービスがほぼ全てでしたが、今後はパートナー企業向けの配信プラットフォームへと進化させたいと思っています。多くの企業に、Gクラスタ技術を用いた当社独自のクラウドの仕組みを利用してもらうことは、これから当社が成長する上でとても重要なことだと考えています。

Q4 もう1つの新規事業であるデジタルシネマについてお聞かせください。

当社グループのデジタルシネマサービスは、2つの事業によって成り立っています。1つは、当社が映画館向けに映画本編や映画広告等の配信サービスを行うものであり、もう1つは関連会社であるデジタルシネマ倶楽部が、映画館向けにデジタル映写機等の機材を貸与するVPFサービスを行うというものです。VPFサービスでは、今期から売上が計上されるようになり、順調に映画館への機材の導入が拡大していますし、ハリウッドスタジオを含めた配給会社との契約も進んでいます。また、配信サービスに関しては、徐々に需要が高まってきていますが、実際にはデジタル機材が普及した後に大きく伸びると思っています。

先に述べたとおり、このVPFサービスの事業の形を上期中に少し修正しました。当初は、機材の調達に関して、

デジタルシネマ倶楽部に任せる形でしたが、より直接的にブロードメディアとして支援する体制を構築したことで、売上と利益の計上が長期分割される形になりました。そのため、導入は予定通り進んでいるものの、今期の売上と利益は構造的に当初予定より下がっています。

今後、デジタル機材が映画館に普及することに伴って、映画に加えて、映画以外の作品(これをalternative contentsと言います。)が上映される機会が増えていきます。当社もその配給に積極的に関与してまいります。当社の狙いは、そうした映像を全てブロードバンドで配信することです。この映画館向けの新しい配信事業も、「3年の準備期間」に成長基盤を固めたいと思います。

Q5 株主の皆様へのメッセージをお願い致します。

当社が将来の中核事業として位置付けているT's TV (Gクラスタ技術)とデジタルシネマは着々と進展しており、ここにきて多くの企業から提携の申し入れを受けるようになりました。当社の独自性が、コンテンツ業界やIT業界から注目を集めるようになった結果だと思います。この注目を世の中全体に広めていく、ここからが当社の正念場です。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

コンテンツ

■ 事業・サービス内容

- ホームエンタテインメント

テレビ向け動画配信サービス
「Ts TVレンタルビデオ」
健康支援サービス
「Ts TVみんなのフィットネス」
- CS放送会員サービス

「Club iT」
- モバイルサービス

「ハリウッドチャンネル」
その他
- 映像サービス

PC向け動画配信サービス
「クラブビット・アリーナ」
- 教育サービス

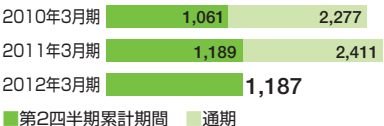
「ルネサンス高等学校」
- その他

「ナショナル ジオグラフィック」

■ 売上高

1,187 百万円 (前年同期比 0.2%減)

■ 売上高の推移 (単位：百万円)



■ 営業の概況

売上高は、CS放送会員サービス、PC向け動画配信サービスが減収となったものの、生徒数の増加により教育サービスの売上高が好調に推移したこと等により、前年同期と同水準の1,187百万円となりました。

営業利益は、教育サービスが増益となったものの、ホームエンタテインメントのコンテンツの調達コストが増加したこと等により、前年同期と比べ38.3%減少し、169百万円となりました。

放 送

■ 事業・サービス内容

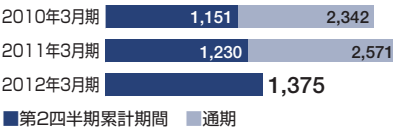
- 釣り専門チャンネル

「釣りビジョン」の番組制作・放送
ケーブルテレビ局等への番組供給

■ 売上高

1,375 百万円 (前年同期比 11.8%増)

■ 売上高の推移 (単位：百万円)



■ 営業の概況

売上高は、「釣りビジョン」の視聴可能世帯数の伸びが好調に推移していること等により、前年同期と比べ11.8%増加し、1,375百万円となりました。

営業利益は、上期増収に加え、販売費及び一般管理費の削減を行ったこと等により、前年同期と比べ52.4%増加し、124百万円となりました。

スタジオ

■ 事業・サービス内容

- 制作事業

日本語字幕・吹替制作
文字放送字幕制作、番組宣伝制作
- 番組販売事業

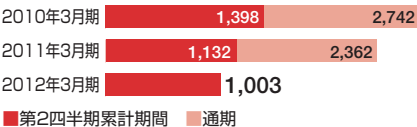
ハリウッド映画等のテレビ局への供給
- 映画配給事業

劇場映画の配給
DVD／Blu-rayの発売、テレビ放映権の販売

■ 売上高

1,003 百万円 (前年同期比 11.4%減)

■ 売上高の推移 (単位：百万円)

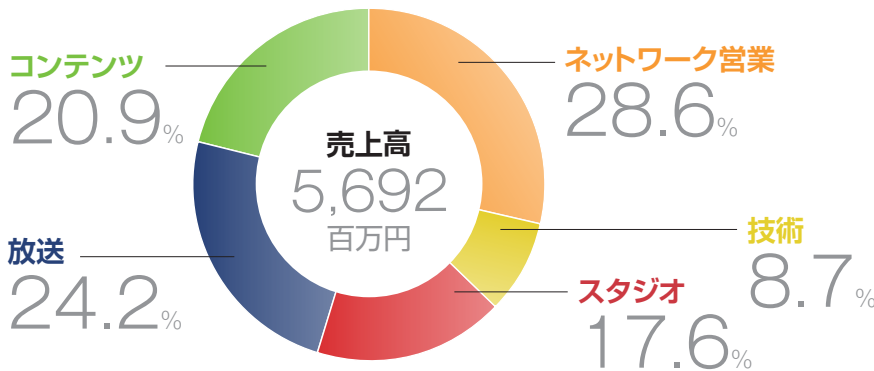


■ 営業の概況

売上高は、前年同期に寄与した大型作品の配給がなかったことが影響し、映画配給事業が減収となったこと等により、前年同期と比べ11.4%減少し、1,003百万円となりました。

営業利益は、上記減収に加え、受注単価低下の影響等で、制作事業の収益が悪化したこと等により、73百万円の営業損失となりました。

部門別営業の概況



技 術

■ 事業・サービス内容

- CDNサービス

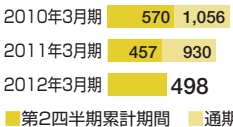
コンテンツを最適な形で配信するCDNサービスの提供
- デジタルシネマサービス

ブロードメディア®CDN for theaterの提供
上映システムの設計・販売・レンタル

■ 売上高

498 百万円 (前年同期比 8.8%増)

■ 売上高の推移 (単位：百万円)



■ 営業の概況

売上高は、CDNサービスは、顧客企業の経費削減等の影響による配信料収入の低下が続いているものの、前年同期には開始していなかったデジタルシネマサービスの売上高が順調に伸びてきていることにより、前年同期と比べ8.8%増加し、498百万円となりました。

営業利益は、上記増収に加え、デジタルシネマサービスの立ち上げ準備費用等の販売費及び一般管理費を削減したこと等により、前年同期と比べ55.8%増加し、20百万円となりました。

ネットワーク営業

■ 事業・サービス内容

- ISPサービス販売

「Yahoo! BB」ISPサービスの販売
- 携帯電話サービスの取り扱い

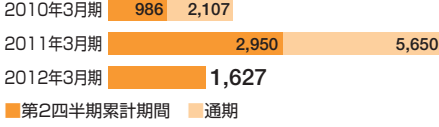
「ソフトバンク・モバイル」の携帯電話サービスや
携帯電話端末の取り扱い
- ブロードバンド回線販売

ブロードバンド回線「Yahoo! BB」の販売
- その他

■ 売上高

1,627 百万円 (前年同期比 44.8%減)

■ 売上高の推移 (単位：百万円)



■ 営業の概況

売上高は、前年同期に売上に大きく貢献したISPサービスの販売が減少したこと等により、前年同期と比べ44.8%減少し、1,627百万円となりました。

営業利益は、上記減収により、前年同期と比べ77.1%減少し、26百万円となりました。

※「コンテンツ」「放送」「スタジオ」の各セグメントは2010年3月期まで「コンテンツサービス」として1つのセグメントになっていたため、過年度の数値を新しい区分に組み替えた想定値と比較しております。

これからのブロードメディア



独自性のあるさまざまなコンテンツを、
独自性のある技術との組み合わせで、
世の中のさまざまな端末などに配信してまいります。

トピックス

● content
コンテンツ

世界初の“クラウドリモコン™”「T's TV リモート」を発表

Androidマーケットで8月11日より無料アプリの提供を開始しました。
メーカー固有の規格に影響を受けず、**T's TV** 対応機種であればどのメーカーのテレビでも、
クラウド技術でスマートフォンを使用して、インタラクティブに操作することができます。



会員登録・年会費どちらも無料！

3,000円分ポイントプレゼント実施中!

※2011年12月31日までに「**T's TV** レンタルビデオ」に新規会員登録をされた方で、メールマガジンの登録をされた方が対象です。

T's TV

検索

● content
コンテンツ

「ルネサンス豊田高等学校」が開校

愛知県豊田市の教育特区に、2校目の通信制高等学校を10月に開校しました。

- 学年の枠にとらわれないフレキシブルな単位制
- モバイルを活用した独自の添削指導(レポート)
- 体験学習を中心とした面談指導(スクーリング)
- 使われなくなった校舎を利用した地域振興



● technology
技術

デジタルシネマサービスの進捗

配給VPF※契約は現在国内外15社と契約済み、13社と契約協議中です。
映画館への導入は200スクリーン、配信網は40箇所を超えて順調に拡大中です。

ハリウッドメジャースタジオ

ディズニー社
その他3社

東宝株式会社
東映株式会社
東宝東和株式会社

ブロードメディア・スタジオ株式会社 他

国 内

松竹株式会社
株式会社角川書店



※VPF…Virtual Print Fee (バーチャル・プリント・フィー)の略。映画館にデジタルシネマ機材を供給し、上映する映画を配給するスタジオが、その機材の使用料を負担することにより、興行側のコスト負担を軽減することが可能。

● broadcast
放送

中国で番組の試験放送を開始

8月29日より中国19省119都市で開始、2011年内は試験放送を行います。
湖南広播電視台グループとの合併会社は、年内設立を目指して最終調整中です。



● studio
スタジオ

上期の配給作品

5月7日公開
『パーフェクト・ホストー悪夢の晩餐会ー』



©2010, THE PERFECT HOST, LLC ALL RIGHT RESERVED.

5月21日公開
『レッド・バロン』



©2008 NIAMA-FILM GMBH

5月28日公開
『クロエ』



©2009 Studio Canal All Rights Reserved.

8月6日公開
『ミラル』



©PATHÉ - ER PRODUCTIONS - EAGLE PICTURES - INDIA TAKE ONE PRODUCTIONS with the participation of CANAL + and CINECINEMA A Jon KILIK Production

8月6日公開
『この愛のために撃て』



©2010 LGM FILMS - GAUMONT - TF1 FILMS PRODUCTION - K.R. PRODUCTIONS

8月27日公開
『レイン・オブ・アサシン』



©2010, Lion Rock Productions Limited. All rights reserved.

8月27日公開
『ピラニア 3D』



©2010 THE WEINSTEIN COMPANY LLC ALL RIGHTS RESERVED.

四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期 連結会計期間末 2011年9月30日現在	前連結会計年度末 2011年3月31日現在
資産の部		
Point 1流動資産	7,566,015	6,272,917
Point 2固定資産	3,117,940	3,403,423
有形固定資産	823,595	487,633
無形固定資産	613,202	645,450
投資その他の資産	1,681,142	2,270,339
資産合計	10,683,956	9,676,340
負債の部		
Point 3流動負債	2,705,687	2,501,551
Point 4固定負債	842,709	402,999
負債合計	3,548,396	2,904,550
純資産の部		
株主資本	6,693,172	6,643,081
資本金	2,666,633	2,666,633
資本剰余金	2,270,490	2,270,490
利益剰余金	1,978,845	1,840,974
自己株式	△222,797	△135,017
その他の包括利益累計額	△27,120	△272,372
少数株主持分	469,507	401,079
Point 5純資産合計	7,135,559	6,771,789
負債純資産合計	10,683,956	9,676,340

四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	当第2四半期 連結累計期間 2011年4月 1日～ 2011年9月30日	前第2四半期 連結累計期間 2010年4月 1日～ 2010年9月30日
Point 6売上高	5,692,243	6,960,710
売上原価	3,606,631	4,578,282
売上総利益	2,085,611	2,382,428
販売費及び一般管理費	1,817,939	1,883,514
Point 7営業利益	267,672	498,913
営業外収益	119,871	86,181
営業外費用	47,617	28,595
Point 8経常利益	339,926	556,500
特別利益	1,562	1,003
特別損失	225,922	36,679
税金等調整前 四半期純利益	115,566	520,824
法人税等合計	△83,907	115,841
少数株主損益調整前 四半期純利益	199,473	404,983
少数株主利益	68,427	36,182
Point 9四半期純利益	131,045	368,800

四半期連結財務諸表(要約)

Point

1 流動資産

現金及び預金が減少した一方、短期貸付金や番組勘定が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べて20.6%増加いたしました。

2 固定資産

リース資産の取得等により有形固定資産が増加いたしました。株式会社ゲームオンの株式を売却した結果、投資有価証券が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べて8.4%減少いたしました。

3 流動負債

未払法人税等が減少した一方、買掛金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べて8.2%増加いたしました。

4 固定負債

長期リース債務が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べて109.1%増加いたしました。

5 純資産合計

四半期純利益131百万円を計上いたしました。また、投資有価証券を売却したことにより、その他有価証券評価差額金が245百万円増加いたしました。一方、剰余金の配当98百万円や自己株式の取得87百万円を実施したこと等により、前連結会計年度末に比べて5.4%増加いたしました。これにより、自己資本比率は62.4%となりました。

6 売上高

「ネットワーク営業」の売上高が減少したこと等により、前年同期と比べ1,268百万円（18.2%）減少いたしました。

7 営業利益

「放送」及び「技術」は増益となったものの、「コンテンツ」及び「ネットワーク営業」が減益となったことに加え、「スタジオ」が営業損失を計上したことにより、前年同期と比べ231百万円（46.3%）減少いたしました。

8 経常利益

営業利益が増益となったこと等により、前年同期と比べ216百万円（38.9%）減少いたしました。

9 四半期純利益

繰延税金資産の増加に伴い税金費用が大幅に減少いたしました。経常利益の減益に加えて、投資有価証券売却損220百万円を計上したため、前年同期と比べ237百万円（64.5%）減少いたしました。

10 営業活動によるキャッシュ・フロー

コンテンツの調達により番組勘定等のたな卸資産が増加いたしました。税金等調整前四半期純利益115百万円を計上したことに加え、支出を伴わない投資有価証券売却損を計上したこと等により、プラス75百万円となりました。

11 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の売却による収入737百万円があった一方、固定資産の取得による支出422百万円や貸付けによる支出645百万円があったこと等により、マイナス321百万円となりました。

12 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当の支払97百万円や自己株式の取得87百万円を行ったことに加え、リース債務の返済54百万円を行った一方、セールアンドリースバックによる収入319百万円があったこと等により、プラス79百万円となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期 連結累計期間 2011年4月 1日～ 2011年9月30日	前第2四半期 連結累計期間 2010年4月 1日～ 2010年9月30日
Point 10営業活動による キャッシュ・フロー	75,953	594,659
Point 11投資活動による キャッシュ・フロー	△321,514	△509,185
Point 12財務活動による キャッシュ・フロー	79,377	8,246
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△6,370	△109
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△172,553	93,610
現金及び現金同等物の 期首残高	2,946,002	2,602,103
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,773,448	2,695,714

IRサイト「投資家情報」のご案内

直近の決算情報や決算概況の動画もご覧いただけます。

【掲載資料】

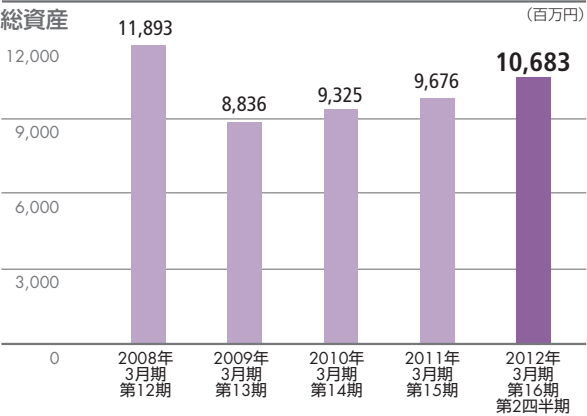
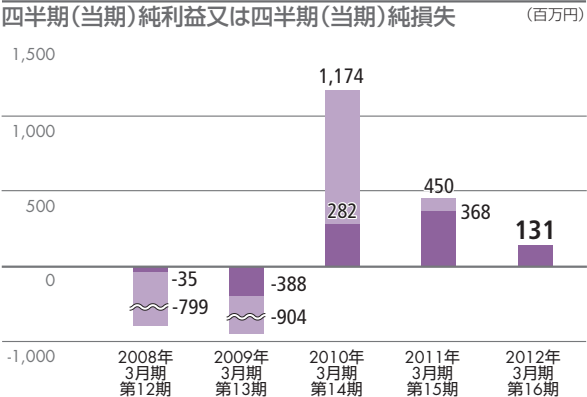
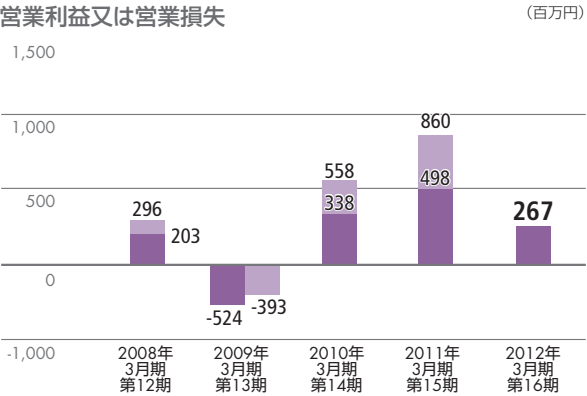
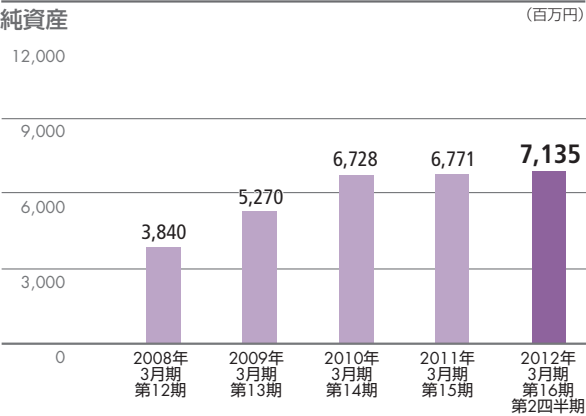
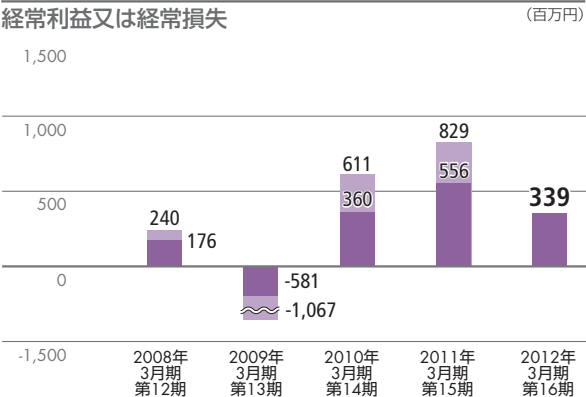
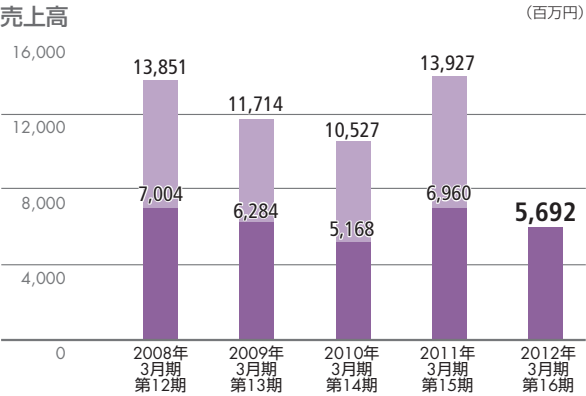
電子公告、決算短信、有価証券報告書、株主通信、株主総会のご案内など



<http://www.broadmedia.co.jp/ir/>

連結決算ハイライト

■第2四半期累計期間 ■通期



会社概要

社名 ブロードメディア株式会社
英文社名 Broadmedia Corporation
設立 1996年9月5日
資本金 2,666,633千円
従業員 65名
インターネットホームページ <http://www.broadmedia.co.jp/>

取締役および監査役

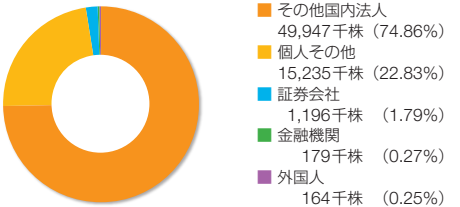
代表取締役社長	橋本 太郎	常勤監査役	浦沢 武士
取締役	久保 利人	監査役	土橋 康成
取締役	中村 大伸	監査役	白石 文人
取締役	植村 保彦	監査役	北谷 賢司
取締役	久松龍一郎		
取締役	嶋村 安高		

※浦沢武士、白石文人および北谷賢司は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株式の状況

発行可能株式総数	128,000,000株
発行済株式の総数	66,723,516株
株主数	5,061名

所有者別株式分布



大株主

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
SBBM株式会社	16,200	24.82
SBIエンタテインメントファンド2号	12,654	19.39
SBIホールディングス株式会社	9,564	14.65

※上記発行済株式の総数には、自己株式(1,454,332 株)を含んでおります。

※所有者別株式分布の「個人その他」には、自己株式を含んでおります。

※大株主の出資比率は、自己株式を控除して計算しております。

会社データ

(2011年9月30日現在)

主な子会社



ブロードメディア・スタジオ株式会社
<http://www.bmstd.com/>
外国映画および外国テレビシリーズのテレビ放映権の販売、日本語版制作(字幕・吹替)、DVDビデオの権利仕入・発売・プロモーション、劇場配給、映画宣伝等をしております。
設 立 2000年8月
所在地 東京都中央区



ハリウッドチャンネル株式会社
<http://www.hollywood-ch.com/>
映画やハリウッドを主とした最新エンタメ情報のPC・携帯・スマートフォン向け配信、映画・海外ドラマ作品の広告宣伝業務や公式サイト制作受託をしております。
また、ドラマを主としたPC向けの動画配信等をしております。
設 立 2003年4月
所在地 東京都中央区



CDNソリューションズ株式会社
<http://www.cdn-sol.co.jp/>
日本における「アカマイ」の中心的な販売代理店として活動すると共に、コンテンツ配信およびアプリケーション高速化サービスをお客様のニーズや環境に合わせて最適な形でご提供しております。
設 立 2001年4月
所在地 東京都港区



ルネサンス・アカデミー株式会社
<http://www.r-ac.jp/>
全国広域通信制・単位制普通科高校「ルネサンス高等学校」を運営しております。様々な専門スクールや企業と連携し、新しいタイプのネット教育を推進しております。
設 立 2005年10月
所在地 東京都中央区



株式会社釣りビジョン
<http://www.fishing-v.jp/>
CSデジタル衛星放送、ケーブルテレビ局における「釣りビジョン」の放送・配信、番組の制作および販売をしております。
設 立 1998年3月
所在地 東京都新宿区